

「葦」35号発刊によせて

奈良県立医科大学附属病院

看護部長 森 本 智磨子

平成15年度看護部の活動の成果を「葦」35号にまとめ発刊出来ましたことを、大変嬉しく思っています。

1年間を振り返って見て思いますことは、大変厳しくまた何と忙しい年であった事かと考えます。

平成15年度はC棟の完成に向けてとSARSを受け入れるための準備に追われた1年であったように思えます。

SARSの受け入れに関しましては、C棟完成までの間南病棟3階東側にユニット型陰圧隔離室10台、搬送車1台（トランジットアイソレーター）を設備し、また外来診察室受付体制、マニュアルの作成等々担当部署の皆様の協力により短期間で準備が出来ました事に対し深く感謝致します。

C棟完成後は感染症センターとして（9床内2床一類対応）スタート致しました。

またC棟への移転も救急棟とA-7階北を除き12月に無事終わる事が出来、21世紀を担う病院として新しく生まれ変わりました。また、看護短期大学も16年度から四大になり奈良県立医科大学医学部看護学科としてスタート致します。

現場はいろいろと厳しく、抱える問題も多くありますが四大生を受け入れるための努力をしていかねばなりません、どうか一人一人が看護の基本をしっかりと身に付け看護部の理念にそって今後ますます研鑽を積み、新しい社会的要請に対応出来る体制を確立し県民の期待に応えるべく努力をし、患者様に喜んでもらえる看護を提供してください。

最後に私事になりますが、皆様のご協力のもと無事定年を迎える事が出来ました感謝の気持ちでいっぱいです。紙面をおかりしてお礼を申し上げますありがとうございました。

今後、ますます看護部が発展されますことと皆様のご健康とご活躍をお祈り致します。